会員だより

スウェーデン消費協同組合連合会に学ぶ

婦中町農協婦人部長　竹部　喜代子

ＩＣＡ女性委員会に出席した折，スウェーデンにおける生活の「高齢者福祉」「消費者活動」について学びました。今回はその中から，消費協同組合連合会の活動を紹介します。

この連合会は，1899年に設立され，スウェーデンの消費協同組合の中央組織で，協同組合の連合体としての機能と，卸売組合の機能の２つで構成されています。とり組まれていた主な活動を上げてみましょう。

(1)　テスト・キッチン（1943年に設立）

組合員の教育活動の一貫としてつくられた部門で，展示場，写真スタジオ，試食室，特別装備のキッチンを揃え，器具はもとより食のテストが常時行われていました。職員は３人の調理師と多数の有志スタッフで構成され，出版事業が実施されていました。スウェーデンの食に関するバイブルといわれている「料理の本」は，すでに18改訂版を出すほどに売れており，内容は，脂肪が少なくて繊維の多い料理，野菜たっぷりの料理，繊維の多いパンの焼き方，休みの日に心を込めて作る料理，オードブルからデザートまで1,200種類も掲載してありました。その他「子どもの食事」「糖尿病の食事」や，ビデオ「おいしくて安価な食事」など，食と健康をテーマにした図書出版には目をみはりました。

テスト・キッチンでは食品のみならず，台所用品の機能テストが行われ，改良が必要と思われる商品には改良要請を生産者に出して，品質の向上，使い易さの追求に努めています。尚，結果は公表されるので，各方面に対して大きな影響力を持っていると誇らし気に話されました。

又，毎週１回，100名のパネラー（10～75才までの男性50名，女性50名。10％の移民者を含む）がテスト・キッチンに集まって，缶詰や加工品の試食調査を行い，評価の集計結果を公表し，メーカーが価格競争に走って品質を落とさないよう監視の貴重な資料づくりをしているとの事でした。

(2)　環境へのとりくみは1970年代に

工場の煤煙が社会問題となり「自然サークル法」が国で施行され，これを受け連合会では，1985年から質の高い食料品プログラムの紹介をはじめているということでした。

クラブ（ＣＲＡＶ）マークは，生産者側の農協関連団体がつけるもので，スウェーデンでは，農薬，化学肥料の使っていなかった40年前の農業にもどろうとする運動が起り，この運動に多くの国民，とくに主婦層が支持し，今やＣＲＡＶマークは有機食品のシンボルとしての地位を確立しています。この他，自然保護協会の認可するエングラ（ＡＮＧＬＡ）マーク，食糧庁認可の鍵マークが消費者の安心して買える基準としてつけられていました。

生協の店舗には，自然環境に配慮した商品が並べられ，食器洗い洗剤の容器を再利用す

る，中身売りの販売機が置かれてありました。常時，利用者にはパンフレットを配布しつつ環境商品への理解に努めているとの事。普通商品と並べてあるうえ，値段が割高であるにもかかわらず，消費者の支持を得て採算ベースが採れていると聞き，消費者意識の高さに敬服してきました。

ゴミ問題については，スウェーデンでは1994年に「ゴミ分類徹底法」が施行されることになり，これは，ゴミを徹底的に細かく分類して出す事が消費者に義務づけられ，生産者は製品の容器回収と再生について相当の責任を負うというものでした。

外食用の使い捨てプラスティック製品に代わってトウモロコシ製のフォーク，ジャガイモ製のプレートが開発され，これらは生ゴミとしてコンポストで処理されていました。政府主導の施策に，国民の8種類にも及ぶゴミ分類を軌道に乗せようとする姿勢を聞き，先進国の感を更に深くし，環境対策への大きな示唆を得ました。